

～認定看護師のあいさつ～



梅雨に入り、紫陽花が綺麗に色づく季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回、クリティカルケア認定看護師についてご紹介します。

クリティカルケア認定看護師とは、集中治療室等で必要とされる集中ケア領域と、救急外来で必要とされる救急領域を統合した2021年度から始まった新たな認定看護師です。医師の指示の下、看護師が手順書に基づいた診療の補助を行う特定行為も組み込まれています。私は、「人工呼吸器関連」、「動脈血液ガス分析関連」、「気管カニューレの交換」、「循環動態に係わる薬剤投与関連」、「栄養及び水分管理に係わる薬剤投与関連」の5区分14行為の特定行為研修を修了しました。当院においては、全身管理が必要な患者さんや全身麻酔後等の人工呼吸器管理の患者さんに対し、呼吸器の設定変更や、呼吸器からの離脱をサポートすべく、医師と協働した特定行為を実践しています。また、動脈からの採血や動脈へのライン確保も医師の指示により行っています。

当院は、西諸地域の中核病院として年間約800件の救急車を受け入れています。搬送される患者さんは重度な交通外傷や重症な呼吸器疾患など多岐にわたるため、対応する看護師にも高度な知識や技術が求められます。2024年12月から医師と看護師が傷病者のもとへ直接向かい、医療介入を行う病院前診療（ドクターピックアップ）を、救急科医師とともに西諸広域消防本部のご協力のもと開始しました。現在は、主に交通事故や転落外傷の際に出動していますが、今後は呼吸不全やショック等の内因性疾患にも対応できるよう、事後の検証会や症例に関する勉強会を継続していきます。

西諸地域の皆様が安心できる救急医療と集中治療を当院で担えるよう、認定看護師として、看護師のスキルアップと後進育成に努めてまいります。

小林市立病院 クリティカルケア認定看護師・外来主任看護師 川野 友香里

### 【理念】

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

### 【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯（しんし）な姿勢で日々研鑽（けんさん）に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



# 新規採用者紹介

令和8年度の新規採用者をご紹介します。  
よろしくお願いいたします。

常勤医師  
消化器外科・  
腫瘍外科

ウエハラ コウヘイ  
上原 光平

4月から外科で勤務することになりました上原光平と申します。小林市立病院は3年前に1ヶ月だけ研修医として働いていました。今年はスタッフとして貢献できるよう頑張りたいです。よろしくお願い致します。

非常勤医師  
糖尿病・  
内分泌内科

ヒラハラ リョウタロウ  
平原 涼太郎

4月から糖尿病・内分泌内科で勤務することになりました平原涼太郎と申します。鹿児島県出身で宮崎県での勤務は初めてになります。地域の皆様に少しでも貢献できるよう精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。

作業療法士

イシグマ マリア  
石隈 まりあ

4月から3階のリハビリを担当させていただく事となりました。作業療法士として患者さんやご家族に寄り添ったリハビリを提供できるよう日々努力していきます。また小林の医療に貢献できるよう頑張りますので宜しくお願い致します。

看護師

ムタ リカ  
牟田 里香

4月から3階病棟に配属になりました。地元で地域の皆様に信頼していただけるよう日々努力していきます。よろしくお願いいたします。

看護師

スギモト リオン  
杉本 李音

今年度から小林市立病院の看護師として勤務させていただくことになりました。小林市の医療に貢献できるよう、日々尽力して参ります。よろしくお願い致します。

看護師

コマキ ノア  
小牧 望愛

4月から5階病棟に配属になりました。新人なので、知識や技術など至らない点がありますが、貴方に任せて良かったと思っていただけるよう日々努力をしていきます。よろしくお願いいたします。

看護師

クリヤマ クミ  
栗山 胡桃

4月から5階病棟に配属となりました。出身は都城市です。笑顔を忘れず、皆様が安心できるような看護を提供できるよう精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。

看護師

オカハラ ナオ  
岡原 尚己

4月より小林市立病院で勤務することになりました。患者ファーストをモットーに、西諸地域の医療貢献できるよう精進して参ります。よろしくお願いいたします。

事務員

オガワ ユキ  
小河 友樹

このたび、事務部経営企画係に配属になりました小河友樹と申します。不慣れな点多く、ご迷惑をおかけいたしますが、一日も早く戦力となれるよう積極的に学んでまいります。ご指導のほどよろしくお願いいたします。

# 令和 8 年度

## 『新規採用看護師研修プログラム』が 始まりました！



令和 8 年度は 6 名の新規採用看護師が、看護部の新しい仲間として入職しました。今年の『新規採用看護師研修プログラム』は 7 月まで定期的に行われており、西諸地域の医療機関に就職した新人看護師 9 名も加わり、総勢 15 名が受講しています。

研修では看護に必要な基礎知識や注射・採血などの看護技術、急変時対応に必要な BLS(\*1) 研修や SBAR(\*2) 研修、感染予防策（スタンダード・プリコーション）(\*3) など様々な分野の講義を、6 つの看護分野の認定看護師（特定行為研修終了者含む）、主任看護師たちを中心に各委員会メンバーやコメディカルスタッフの協力を得て実施しています。

研修終了後は、各自が自分の配属部署で、先輩看護師達の指導を受けながら、患者さんに看護サービスを提供することになりますが、この研修で学んだことを活かして活躍してくれることを願っています。

(\*1) BLS : Basic Life Support : 心肺停止や呼吸停止に対する一次救命処置

(\*2) SBAR : Situation Background Assessment Recommendation : 医療現場での報告を状況・背景・評価・提案の 4 要素で伝えるコミュニケーションツール

(\*3) 感染予防策（スタンダード・プリコーション）：血液、体液、汗を除く分泌物、排泄物などは感染の有無にかかわらず、すべての人に同じ基本的な予防策（手洗い・手袋やマスク、エプロンの着用など）を行うという考え方・方法



看護部教育委員会委員長 森川 裕子

# 消化器外科・腫瘍外科紹介



当院消化器外科・腫瘍外科は、令和6年度より鹿児島大学病院第一外科より1名の増員がございました。令和8年度は坪内事業管理者、徳田院長、島名外科科長、泊、上原の5名体制で診療を行っています。

年間200例強の手術を行っております。悪性疾患としては胃癌、大腸癌、良性疾患としては胆石症、単径ヘルニアの手術を中心に行っております。さらに、西諸圏内で緊急手術に対応可能な数少ない施設であり、穿孔性腹膜炎や絞扼性イレウス、ヘルニア嵌頓などの疾患に対しても可能な限り取り組んでおります。また、基幹病院からの研修先としての役割もあり、宮崎大学医学部附属病院、鹿児島大学病院、宮崎県立宮崎病院などから外科研修医の受け入れを行っております。

消化器外科医不足が話題となっておりますが、そもそも宮崎県は全国平均以下の医師数であり、高次病院においてもなかなか充足していない状況にあります。西諸圏内はさらに厳しい状況にありますので、若い先生方に外科への興味を持って頂けるよう微力を尽くしている次第です。

地域の皆様方、近隣の先生方のご要望に応えるべく診療、手術を行っておりますが、限られたリソースでやりくりしている現状です。今後とも、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

消化器外科・腫瘍外科医長 泊 賢一郎

# 訪問看護ステーション紹介

「あなたは最期をどこで、どのように迎えたいですか？」



緩和ケア認定看護師の瀬口です。厚生労働省が実施した調査結果で、「自宅で最期を迎えたい」と考える人は約6割いることが分かりました。

「自分らしい最期を、自分らしい場所で迎えたい」その思いを、事前に家族等と話し合う事が大切です。それを機会に、家族も心づもりが出来ます。また、医療者と共有することで、希望に沿った医療やケアが提供され、本人と家族が共に安心して最期の時を過ごす環境を整えることができます。自分が意思表示できるときに、「最期の迎え方」の希望を、家族や大切な人に伝えておきましょう。

さて、小林市立病院訪問看護ステーションは令和6年7月に開設されました。看護師が自宅へ訪問して、全身状態を観察し医療的な援助を行っています。また、利用者さんや家族の意向に添えるよう、丁寧に対話を積み重ね支援しています。在宅療養を継続するためには、家族を含め、地域の福祉、行政等の多職種の皆様と連携し力を合わせる事が大切だと学ばせていただいています。今後も自己研鑽に努め、利用者さんや家族の最善を考え、多職種で密に連携しサポートして参ります。

訪問看護ステーション 緩和ケア認定看護師 瀬口 里美



# 放射線室紹介

放射線室は4名の診療放射線技師が従事しており、各診療科と密に連携を取りつつ、診断・治療に用いる画像の提供や、各種放射線機器等の保守管理および放射線被ばく防止に関する業務を行っています。また、西諸地域の救急医療に対応すべく、オンコール体制により24時間365日、検査が可能です。

近年進歩し続ける技術や多様化する専門性に対応した医療を提供できるよう日々研鑽し、各種専門認定技師の育成にも力を入れています。

## ◆認定資格◆

- 超音波検査士（健診領域・腹部領域）4名
- 検診マンモグラフィ撮影認定技師 3名
- X線CT認定技師 2名
- 第一種放射線取扱主任者 1名
- 救急撮影認定技師 1名
- ICLS認定インストラクター 1名
- 臨床実習指導教員 1名
- 災害支援認定診療放射線技師 1名
- 放射線被ばく相談員 1名

## ◆CTの被ばくに関して（診断参考レベルDRLs2025）◆

診断参考レベル（DRL:Diagnostic Reference Level）とは、医療機関での放射線検査において、患者さんが受ける放射線の線量が適切であるかを判断するための指標です。これは、過度な被ばくを防ぎつつ、診断に必要な画質を確保するため、数年ごとに更新されています。この値は、実際に使われている放射線量を全国の医療機関で調査し、その平均値となっています。X線を使った検査では、X線の量が少ないと、画像が不鮮明になり正しい診断ができず、多すぎた場合は画像の質は変わらず、被ばく線量のみ増えてしまいます。つまり、放射線検査では、「適正な放射線量」で行う必要があります。この『適正な放射線量』の値が「診断参考レベル」であり、基準と自施設の値を比較することで適切な放射線量を確認できます。

当院では、線量管理システムにてCTを受けた全ての患者さんの記録を行い、適切な放射線量で検査を行っているか毎年検証をしています。基準と比較しても低い線量を用いており、安心して検査を受けていただけます。

### （成人の一部のみ掲載）

	小林市立病院（2025年度平均値）		診断参考レベル2025	
	CTDIvol	DLP	CTDIvol	DLP
頭部	35	898	67	1260
胸部～腹部	11	869	14	940

CTDIvol(mGy)：CT画像1枚の線量

DLP(mGy・cm)：検査範囲全体の線量（検査目的や範囲、患者さんの体格などで異なります。）

※検査1回のみ平均値（造影の際は複数回撮影することもあります。）

放射線技師 川野 真吾



# 臨床工学室紹介

昨年、臨床工学室に入職いたしました重黒木と申します。延岡市出身です。趣味はドライブで、休日はリフレッシュしています。入職2年目として、先輩方に教えて頂きながら日々経験を積んでいます。

当部署では、医療機器の安全な運用を通して日々の診療を支えています。主な業務は、医療機器の点検や管理をはじめ、透析業務、手術室や内視鏡室での業務など多岐にわたります。医療機器が安全に使用されるよう日常的な確認を行い、患者さんが安心して治療を受けられる環境づくりに取り組んでいます。また、他職種と連携しながら、患者さん一人ひとりに適した医療が提供できるようチーム医療の一員として現場を支えています。さらに、在宅医療での遠隔診療や酸素療法、輸液療法等の準備や調整にも携わっており、院内だけでなく地域での医療にも貢献しています。

患者さんからお声をかけていただくこともあり、その一つひとつが励みになっています。これからも丁寧な対応を心がけ、患者さんに安心して医療を受けて頂けるよう努めてまいります。

臨床工学技士 重黒木 翔大



## 小林市立病院公式Instagram

病院の取り組みや活動、地域への情報発信を目的として、小林市立病院公式Instagramを開設しました。

スマートフォン等で左のQRコードを読み取るとか、「Instagram」「小林市立病院」で検索してください。ぜひ、フォローをお願いいたします！

## スタッフのひとこと

梅雨の時期になり、紫陽花の花がきれいに見られるようになりました。その一方で、雨や湿気に悩まされる時期でもあります。皆さんは雨の日、どんな1日を過ごされていますか？

我が家は、晴れた日は子供の部活で出かけることが多いのですが、雨が降ると部活も休みになり、1日家で過ごすことがあります。何もせずゆっくり過ごすのもいいですが、あっという間に過ぎる日にもったいないなあと思うこともしばしば・

家の中で出来る楽しみを見つけながら、梅雨の時期を乗り切りたいと思います。

地域医療連携室 事務員 瀧口 麻希



連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225 (直通)

FAX 0984-23-8226

Mail k\_hosp4@city.kobayashi.lg.jp